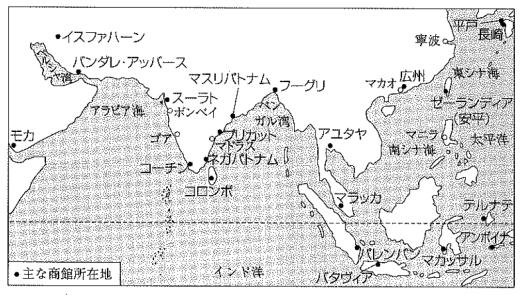
人間性の探究 第5回 東インド会社とアジアの海② 2020年度前期

*授業の前に…毎回動画視聴後の課題レポートを書く際のポイント

- 「●●について分かった」→それについて自分はどう思うのか
- ・「●●が面白いと思った」「●●に驚いた」→具体的に●●のどういった点が面白いと思ったのか、具体的に●●のどういう点に驚いたのか
- ・「●●について疑問に思った」→なぜそれを自分は疑問に思うのか
- …ex.一般には(他の事例では) \bigcirc \bigcirc ならば \triangle \triangle であるのに、そうではないから
- …ex.自分の経験や直感から△△だと思っていたが、そうではないから(→自分の経験や直感にもとづくその判断は客観的に見て妥当であるか?)
- ※毎回の課題レポートは、最終レポートを書く際の練習になります!
- ※文系・理系を問わず、文章を書く地道な練習の積み重ねが、大学卒業後にも役立つ理解力や表現力につながります!

オランダ東インド会社の主な商館所在地(17~18世紀)



羽田正『東インド会社とアジアの海』講談社,2007,pp.94

3

日蘭貿易とバタヴィアへ渡った人々

*日蘭貿易の始まり

・1600年:日本に初めてのオランダ船漂着(太平洋周りのリーフデ号)

・1609年:平戸商館設置、1612年から貿易開始

※オランダが受け入れられた背景

- ・家康のポルトガル・スペインへの警戒心
- ・オランダは当時、ポルトガル・スペインと敵対していた

*日蘭貿易の特徴

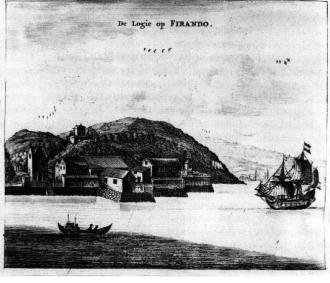
<輸入品> 大半は中国産の絹織物や生糸、鹿皮、鮫皮など

- <輸出品> 金、銀、銅、樟脳など
- ・日本にとっては輸出超過の片貿易
- ・オランダにとっては利益大(他の商館と比べても最高の利益)

4







平戸の宿(平戸島)(国際日本文化研究センター・データーベース)

5

*徳川幕府による鎖国政策と混血児追放

※1633 (寛永10)年~1639(寛永16)年の5回の鎖国令

…①日本人海外往来の禁止、②キリスト教禁止と信者摘発、③外国貿易の管理と取り締まり、④南蛮人や混血児の国外追放と隔離、⑤ポルトガルとの断交(第5回鎖国令により追加)

・1636年:ポルトガル人の混血児287人をマカオへ追放

・1637~1638年:島原の乱(「キリシタン一揆」)→ポルトガル人の通行・貿易を完全禁止

・1639年:今後オランダ人(紅毛人)は長崎で混血児をもつことを禁止

・1639年:32名のオランダ人、イギリス人、混血児、日本人の母親を「ジャガタラ」 (バタヴィア)へ追放

・1640年:オランダ平戸商館の点検と破壊

・1641年:長崎出島へ商館移転

*バタヴィアへ渡った混血女性:「じゃがたらお春」

- ・1625年:イタリア人航海士ニコラス・マリンと長崎酒屋町貿易商の娘マリヤ(宗教名) の子として生まれる
- ・1639年(15歳): 母マリヤ、姉お万、お万の子・万吉とともに追放され、平戸、台湾を経由してバタヴィアへ
- ・一度も日本に戻らず、72歳で死去

※お春の伝説

・「発見」されたお春の「じゃがたら文」※

※じゃがたら(ジャカルタ=バタヴィア)から届いた手紙

…西川如見(江戸中期・長崎の天文家)の『長崎夜話草』で紹介され、 語り継がれる

…歌謡曲の題材にも (昭和14年の「長崎物語」)



7

*お春の「じゃがたら文」(『長崎夜話草』)

「千はやふる、神無月とよ、うらめしの嵐や、まだ宵月の、空も心もうちくもり、時雨とともにふる里を、出でしその日をかぎりとなし、又ふみも見じ、あし原の、浦路はるかに、へだゝれど、かよふ心のおくれねば、おもひやるやまとの道のはるけきもゆめにまちかくこえぬ夜ぞなき」

《口語訳》「あれは十月のことでした。うらめしく吹く風の中、夕方なのに、空も心も曇って時雨とともに故郷を出た其の日が最後だったのですね。再び手紙すら見られないほど遠く隔たってしまい、気持ちをお伝えできませんが

お思いをする日本はとても遠くなったけれど夢の中では毎夜この距離を こえて心を通わせております」

「一、松かさ この手かしわのたね 杉のたね はうきぐさのたね 御ねんしんたのみ参らせ候。かへすがへすなみだにくれてかき参らせ候へば、しどろもどろにてよめかね申べく候まま、はやばや夏のむしたのみ入候。我身事今までは異国の衣しやう一日もいたし申さず候。いこくにながされ候とも、何しにあらゑびすとは、なれ申べしや。あら日本恋しや、ゆかしや、見たや、見たや、見たや。」

《口語訳》「一、松かさ、このてかしわの種、杉の種、ほうき草の種を折り返しお送りくださいませ。涙にくれながら書いておりますので、文もしどろもどろで読みにくいことと思いますが、もう夜明けも近く、夏の虫も目がさめたようです。わたしは今まで異国の衣装など一日たりとも着たことはありません。異国に流されてはおりましても、どうして、野蛮人になれましょう。ああ日本が恋しい。なつかしい皆様にお会いしたい、恋しい、恋しい、日本。 じゃがたら はるより

日本の おたつさま 御もとへ」

9

9

*バタヴィアへ渡ったもう一人の混血女性:「おてんばコルネリア」

- ・本名:コルネリア・ファン・ネイエンローデ
- ・1629年:平戸商館長コルネリス・ファン・ネイエンローデと愛人スリショとの間に生まれる
- ・1637年:父の死後、東インド会社により財産は差し押さえられ、異母姉とともにバタヴィアへ送られ、孤児院で暮らす
- ※バタヴィアへ流されたお春とコルネリアはどのような人生を送ったのか?
- ※彼女たちは、混血児として生まれたために突然異国に追放され、生涯故郷を慕いながら死んでいった哀れな女性だったのか?
- ※当時のバタヴィア社会とはどのようなものだったのか?またオランダや日本とのつながりは? 10

*城塞都市バタヴィア

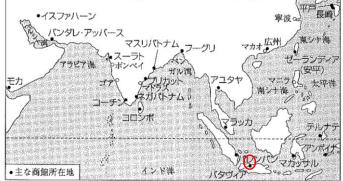
・1619年:第4・6代総督ヤン・ピーテルスゾーン・クーンがバンテン王国・イギリス連合軍を破り、バンテン王国の土地「ジャヤカルタ」を占領

⇒「バタヴィア」(ライン川下流域に住んでいたゲルマン人の「バタヴィ

族」に由来)と名付ける

・東インド会社のアジア貿易拠点

・当時の日本人は「じゃがたら」 と呼んでいたそう



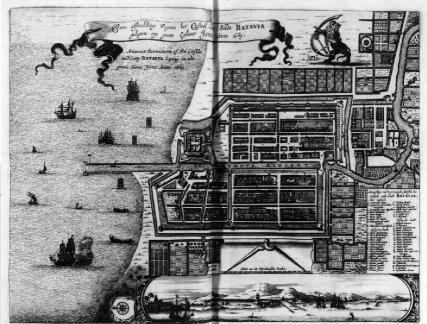
オランダ東インド会社の主な商館所在地 17~18世紀

11

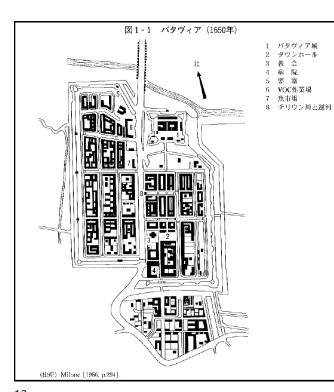
17世紀のバタヴィアの 様子



「バタヴィア城遠景」[バタヴィア城日誌1]



1669年代ジャワ島にあるバタヴィアの城と市の図(バタヴィア市) 12 (国際日本文化研究センター・データーベース)

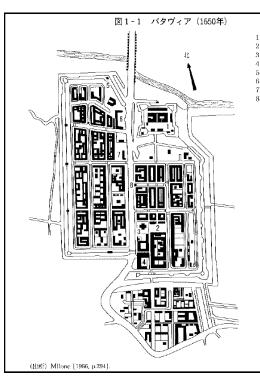


*バタヴィアの都市構造

- ・南北約2,250メートル, 東西約 1,500メートルの長方形
- ・チリウン川(「大きい川」)河口に 位置、チリウン川が南北に走り、 町をほぼ2等分
- ・南北、東西に数本の運河、道幅 はいずれも30フィート(約9メート ル)、運河と道路により格子模様
- ・町全体が珊瑚石の高い壁で囲まれ、城壁には22の堡塁(ほうるい) がある。

13

13



*バタヴィアの都市構造

バタヴィア城 タウンホール 教 会

VOC作業場 魚市場 チリウン川と運河

- ・四つの門があって,町を囲む深い 堀にかかる橋に繋がっている
- ・タウンホール、教会、病院、作業場、魚市場、倉庫、事務所、上級職員の居住区、守備隊の兵舎、裁判所などを整備

*当時のバタヴィアの人口

※総督クーンの人口増加政策により移住促進

・「オランダ自由市民」

...当初は元会社職員のみ

…後に本国から「身分の高い既婚者たち」「若い未婚婦人」の移住を促進

…「荒くれ者」(飲酒、放蕩、乱暴、 私貿易)が多かった?

・奴隷、マイデイケル(解放奴隷)、 日本人、中国人、原住民も ¹⁵ 1632年11月バタヴィア市民人口調査の結果 [永積2000:186]

会社使用のオランダ人	1,730
オランダ人自由市民	638
日本人	83
中国人	2,390 _{\cdot}
会社の農民	1,254
各種奴隸	1,010
マルデイケル(解放奴隷) とその奴隷	649
原住民その他	304
合 計	8, 058

15

* 当時のバタヴィア社会の雰囲気

- ・一攫千金をめざすヨーロッパ人とアジア人が行き来し出会う場 (「開拓地社会」フロンティア)
- ・ヨーロッパ人にとっては常に危険と隣り合わせの場
- ...長く危険な航海のリスク、過酷な熱帯気候と疫病の危険
- ...祖国に帰還した者の割合は30% [ブリュッセイ1988:6]

* 当時のバタヴィア社会の雰囲気

・「…お金を搔き集めることが、ここでは公然と語られるほどの信条になっており、それを否定するなんてとんでもないことだと考えられております、バタヴィアで人々はこのように言っております。『当地への航海は長くて危険に充ちており、気候は人の健康を損ない、人を消耗させる。だから、こうした犠牲と危険は報われなければならない。(まともに働いて)財産を蓄えることができるのは、特別の才能ある者だけだ。行儀や作法に他の人よりも多くの気づかいを示し、そのために、われわれが当地へやってきた目的を果たさずに終わるのは、愚かなことだ』と。[バタヴィアでの]実際の生活はこの嫌悪すべき意見を立証しています。|

(あるオランダ人の手紙 [ブリュッセイ1988:4])

17

*バタヴィアの日本人の特徴

・多くが東インド会社の契約移民 (⇔マニラやアユタヤなど他の日本人町: 朱印船貿易にともなう商業移民)

・オランダによる日本人移民300名の輸送 …1613~1620年に4回に分けて325人輸送(1620 年に100名難破)

…独身男性だけでなく既婚者やその妻子、未婚 女性も渡航

・その他、追放された人々も(例えば1639年) …ヨーロッパ人との混血児や日本人の母親など

バタヴィア在住日本人の出身地別統計 (1618年~1667年) [永積2000:187]

出身地	男	女	計
援 崎	27	7	34
¥)=	6	16	22
EI ST	()	2	2
大 村	1	0	1
肥前	l	0	1
筑 前	1	0	1
薩摩	1	0	1
界	3	0	3
大 坂	1	0	1
伏 晃	1	1	2 '
京 都	1	1	2
躞 河	1	0	1 ,
红河	1	2	3 .
不 明	28	11	39 .
#ŀ	73	40	113 18.

*当時のバタヴィアの日本人(男性)の暮らし

- ・財産のある日本人男性は日本人女性と、財産のない日本人男性は現地人 や外来アジア人と結婚する傾向
- ・契約移民の多くは、契約が切れると自由市民となって商売を始める(果樹園や家屋の賃貸借、金融や奴隷取引、貿易などに従事)

19

19

* 当時のオランダ人は日本人をどのように見ていたのか?

…「我等が当地において見るところによれば、日本人は性質怜悧にして有能であるが、その給料は低廉にして、米と塩魚などきわめて安価なまかないで養うことができる。大工9名、鍛冶職3名がいてあとは水夫と兵士であり、もし十分に役に立つようなら将軍からも許可を得ているので今後必要なだけ雇うことができるだろう。|

(1613年の日本人68名移送の際の、平戸商館長へンドリック・ブルーウェルから東インド総督ピーテル・ボットへの手紙)

※バタヴィアへ渡ったお春やコルネリアはどのような生涯を送ったのか?

*お春について

…白石広子による公文書や手紙の分析 (『じゃがたらお春の消息』勉誠出版,2001)

*コルネリアについて

…レオナルド・ブリュッセイによる裁判記録の分析 (『おてんばコルネリアの闘い』平凡社, 1988)

21

21

*バタヴィア渡航後のお春の人生:『じゃがたらお春の消息』から

- ・姉お万が村上武左衛門(現地日本人社会の有力者/貿易商)と結婚
- ・22歳で東インド会社事務員補・平戸生まれのシモン・シモンセン(混血児?)と結婚し、 三男四女をもうける(しかし長女マリアを除き、皆に先立たれる)
- ・夫は出世し、バタヴィアの上流社交界に出入り。奴隷を多数所有。夫の死後は何らか の商売に従事
- ・長崎の親族や知人との手紙のやり取り
- ...贈り物の品目、送ってほしいもののリスト、近況報告、お礼などを綴る
- ・72歳で死去

22

*バタヴィア渡航後のコルネリアの人生:『おてんばコルネリアの闘い』から

- ・異母姉へステルと共に孤児院 で育つ
- ・1652年:東インド会社商務員補ピーテル・クノルと結婚、四男六女をもうける(しかし、ほとんどの子に先立たれる)
- ・夫のスピード出世により裕福 な暮らし(50人の奴隷)、総督や インド評議会にも人脈



23

・1676年:夫の死後、46歳でバタヴィア裁判所判事ヨハン・ビッターと再婚するも、財産管理をめぐって周囲を巻き込み泥沼化

(15年以上にわたる係争)

…「(ビッターは)彼女のことを売女、けだもの、夜叉面、醜悪のかたまりだと、彼はいつも怒鳴り散らし、それから急に優しくなったかと思うと『マミー、こちらへおいで、仲直りをしよう』というのだった。これに応じる返事が返ってこないと、彼は途端にもう一度またやり始め、『けだもの』などと喚きたてて、彼女を打とうとして奴隷を打つのに用いる長い答を取り上げるのだった。」[ブリュッセイ1988:68]

- ・1687年(50代後半):高等裁判所での裁判のためオランダ本国に渡る
- ・1692年:裁判係争中に死去

※当時のバタヴィアの日本人女性の暮らし

- ・日本人女性(混血を含む)は殆どがヨーロッパ人と結婚 ※東インド会社は社員にアジア人女性との結婚を推奨していた
- ・東インド会社上級商務員の妻=「バタヴィアの貴婦人」と呼ばれる …郊外に広壮な別荘、豪華な馬車での移動、何十人もの奴隷を使用
- ・絶え間ない妊娠と出産、子どもの死
- ・夫の死後は、その財産を元手に不動産の斡旋・中国人への高利貸・貿易業などを行う
 - ・手紙や物品のやりとりを通して、日本の家族や知人と関係を維持 25

25

* 当時のバタヴィアにおける女性の地位

- ・当時のオランダの法律では、夫は妻の財産に対する全面的支配権をもつ (→バタヴィアにおいてもオランダの法律が効力をもつ)
- ・女性 = 「法的行為無能力」
- …夫の認証、援助、もしくは同意なしに自己の資産に関していかなる法的 行為、契約も行うことができない
- ・そのため、女性は様々な方法を駆使して財産管理権を守ろうとした
- …婚前に夫婦財産契約書を作成
- …社交界で得た人脈を活かして自分の主張を訴える など

まとめ:日本〜東インド〜オランダをつなぐお春とコルネリアのエピソードが示すこと

くお春の場合>

- ・お春という人物は実際に存在したが、「じゃがたら文」は西川如見が創作した疑い→創作された「哀れなお春像」が後代に引き継がれていく
- ・後に発見された「真実の手紙」(「しもんす後家お春の手紙」)では、家族・知人への贈り物の品目、送ってほしいもののリスト、近況報告、お礼などを淡々と綴っていることが明らかに

<コルネリアの場合>

・当時のバタヴィア/オランダ社会では女性は法的に弱い立場にあったが、 コルネリアは自らの財産を守るためにあらゆる手を使って夫と闘った

27

27

まとめ:日本〜東インド〜オランダをつなぐお春とコルネリアのエピソードが示すこと

- ・バタヴィアに渡った混血女性をめぐる長く語り継がれてきたイメージ = 混血児として生まれたために突然異国に追放され、生涯故郷を慕いなが ら死んでいった、弱く、哀れな女性というイメージ
- ⇔実際には、彼女たちは故郷とのつながりを保ちながら、新しい環境を楽しみ、逞しく生きたのでは?
- ※当時の日本人女性の性格を表す言葉
- ...コルネリアの愛称 = 「おてんばコルネリア」
- ※「おてんば」…長崎のオランダ人が、伴侶である日本人女性の制御しがたい性格を表現するために作り出したとされる言葉。ontembaar(オランダ語で「馴らしにくい/手におえない」の意味)が転化したものとされる

まとめ:「グローバル・ヒストリー」の視点からみる歴史の可能性

- ・都市と都市の関係史
- ・日本を含めた「世界史」
- ・アジアやその他の「マイナー」地域、海、山岳地帯、砂漠?などを舞台 にした歴史
- ・文化の混交、人やモノの移動の歴史
- →従来の歴史では見落とされていた発見、新しい視点の可能性?
- →ただし国家を単位とした歴史とのバランスと連携が必要?

29

29

参考文献

- 青木康征『海の道と東西の出会い』山川出版社,1998
- 白石広子『じゃがたらお春の消息』勉誠出版,2001
- 永積昭『オランダ東インド会社』講談社,2000
- 羽田正『東インド会社とアジアの海』(興亡の世界史15)講談社,2007
- 増田義朗『大航海時代』(《ビジュアル版》世界の歴史13)講談社,1984
- レオナルド・ブリュッセイ『おてんばコルネリアの闘い』(栗原福也訳) 平凡社,1988